

平成28年度 自己点検・自己評価結果

1. 評価基準

「看護師学校養成所の自己点検・自己評価指針」に基づいて実施した。

(看護師等養成所の教育活動などに関する自己評価指針作成検討委員会まとめ)

2. 評価点

4点：よく当てはまる・・・70%以上満たしている

3点：当てはまる・・・30%～70%満たしている

2点：あまり当てはまらない・・・30%以下しか満たしていない

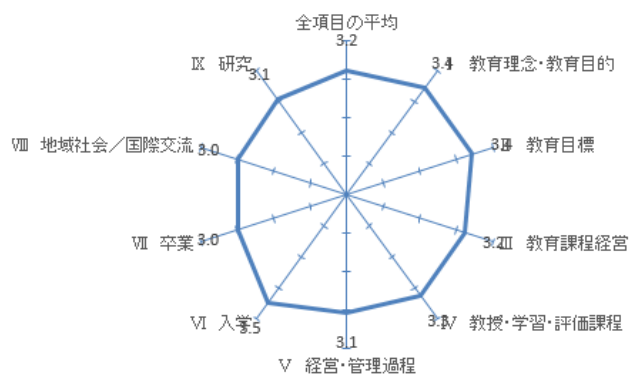
1点：当てはまらない・・・満たしていない

3. 評価者

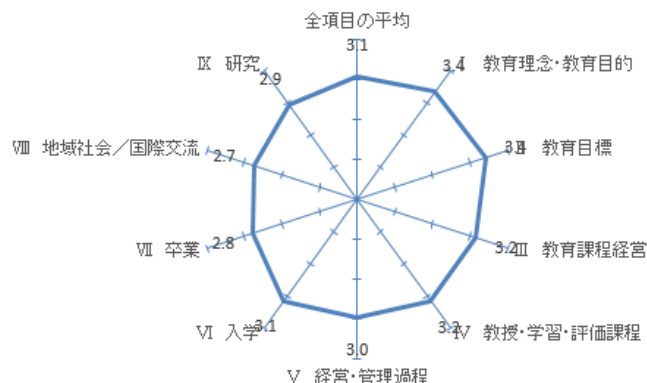
教職員全員（教員・事務）と担当理事で実施した。

4. 結果

【3年課程】



【2年課程通信制】



5. 総括

1) 平成28年度の主な取り組み。(平成27年度 第3回目自己点検・自己評価を受けて)

①防災委員会の発足。学校防災マニュアル指針・防災ハンドブックの作成、深谷市地震、洪水ハザードマップと合わせた学生への配布等、防災教育を開始。

②看護技術のオリジナル動画作成、オリジナル看護技術動画のDVD及び図書室DVD貸し出し開始。Wi-Fi環境を活用した授業におけるネットからの画像視聴の円滑化。

③授業アンケート・実習アンケートの結果返却と担当講師との面談、実習室の音響設備改善。

④学校案内リニューアル準備着手。

⑤第4回 深谷えん旅に初めて企画、参加（なりきり看護師ケア）

2) 自己点検・自己評価は、良い学校作りを目指して実施しており、項目ごとに分析した結果を以下の3つの視点でまとめる。

(1) 評価点が3点以上で、学校として評価できる項目（大項目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ）

①自己点検・自己評価の実施が4年目となり、評価視点や内容の共通理解が進んだと考えられる。教育理念・教育目的に合致した教育目標、育成人材像が明記されており、教育課程経営においても明確な考え方と根拠をもって編成されている。理念等が、学生・保護者に周知され、学習の指針となっている。実践的な教育活動を目指して、臨地実習における指導者との連携にも努力している。また、防災マニュアルの作成等、安全教育を充実させる取り組みも行っており、課題解決に向けて意識高く取り組んでいる事が結果に反映されている。

②教育理念・教育目標を達成するために、カリキュラムポリシーに基づいた特色ある教育活動が工夫されており、学習への動機づけと学習支援のための体制は手厚く、教職員間の連絡・調整・連携が充実している。

授業アンケートの返却が始まり、授業者はこれまでも様々な方法で授業の見直しを行ってきたが、評価をもとに教授内容や教授形態を見直し、更により良い教授への取り組みが始まっている。外部講師と授業について話し合う機会にもなっている。

③入学は、入学選抜方法の妥当性について検討し職員間で共通認識され、アドミッションポリシーを基に入学選抜が行われている。

(2) 評価点が3点未満の項目（大項目Ⅴ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ）の現状と課題

①経営管理過程における意思決定について、決定に至った経緯を含めての周知不足から評価が低いと考えられる。また、個別指導を多く行っているにも関わらず、プライバシーが守れるスペースの不足や経年劣化による空調の不具合等がある。

卒業生の活動状況把握への取り組み不足が継続しており課題である。外国国籍の学生や留学生は入学していないのが現状であり、研究に関しては研究活動に助言できる人材育成が課題である。

(3) 大項目では3点以上だが、小項目で3点未満の項目の現状と課題

①教育課程経営における教員の授業準備が低評価である。原因としては、学生への個別指導、実習指導や学生についての情報交換等、きめ細かく学生支援を行おうとすると授業準備の時間が不足する。授業の質向上は教員の責務であるため、授業準備の時間がとれる体制が必要である。教員への授業アンケートの返却時期や教員個人の結果活用方法にも課題がある。また、授業アンケートをどのように活かして評価指標とするのか検討が必要である。

②臨地実習における教員役割と指導者役割の明確さの評価は改善傾向であるが、臨地実習で求められる教員の調整力は大きく負担感があるのではないかと。実習での調整は教員の教育実践力に含まれるため、キャリア別の支援について検討が必要である。

③研修参加等に関して各自が希望したものには参加できており、サポート体制も充実しているが、授業や実習により参加できない場合もある。教員の資質向上のためのサポート体制のさらなる充実が課題である。